

川の中の 生き物たち



ウオ 魚ツチしたところ

調査のあらまし

日時 令和5年7月18日、26日、27日
 項目 魚類 甲殻類 附着生物 底生生物 水質 底質
 場所 ①中央大橋（隅田川） ②浅草橋（神田川） ③日本橋（日本橋川） ④亀島橋（亀島川）
 ⑤大手門橋（築地川） ⑥黎明橋（朝潮運河） ⑦佃小橋（佃川支川） ⑧石川島公園

※附着生物の調査場所は①③④⑤⑥⑦⑧の7か所です。

—このパンフレットは、令和5年度水生生物調査にもとづいて作成しました。—

①中央大橋（ちゅうおうおおはし）



②浅草橋（あさくさばし）



③日本橋（にほんばし）



④亀島橋（かめじまばし）



⑤大手門橋（おおてもんばし）



⑥黎明橋（れいめいばし）



⑦佃小橋（つくだこばし）



⑧石川島公園（いしかわじまこうえん）



水の中を動いている 生き物

魚やカニの仲間

中央区の川は、すぐ海に流れこみます。海には潮の満ち引きがあり、潮が満ちる（満潮：まんちょう）と海から川に海水が流れこみます。海水と川の水（淡水：たんすい）がまじり合う場所を汽水域きすいいきといいます。このような環境を好む生き物がたくさんとれました。

とることができた魚たち

	名前 / 調べた場所	①中央大橋	②浅草橋	③日本橋	④亀島橋	⑤大手門橋	⑥黎明橋	⑦佃小橋	⑧石川島公園	合計
魚の仲間	コノシロ					3	4		1	8
	カタクチイワシ	37					6			43
	マルタ							1		1
	ワカサギ							1		1
	ガンテンイシヨウジ					1		1		2
	スズキ	3			2		1			6
	クロダイ								1	1
	トサカギンポ						1			1
	ドロメ							1	6	7
	ビリンゴ		1	8		14	1	54		78
	ニクハゼ	2			1	2	6	13		24
	マハゼ	33	16	1	21	18	21	21	10	141
	ヒナハゼ						1			1
	アベハゼ		3	3	6	5	1		2	20
	シモフリシマハゼ	3	2	2						7
カニやエビの仲間	ヌマチチブ					1		1		2
	チチブの仲間	1	1		2	1		1		6
	ユビナガスジエビ							2	1	3
	タカノケフサイソガニ	1						3	7	11
	クロベンケイガニ								2	2
	カクベンケイガニ								3	3
	コメツキガニ								1	1
	全個体数	80	23	14	32	45	42	99	34	369
	種類数	7	5	4	5	8	9	11	10	22



網や竹などでできたかごを川に沈めて、カニや小さな魚をとりました。
※黄色のうきの下に沈めてあります。



投網やたも網で、泳いでいる魚や護岸にいる魚をとりました。



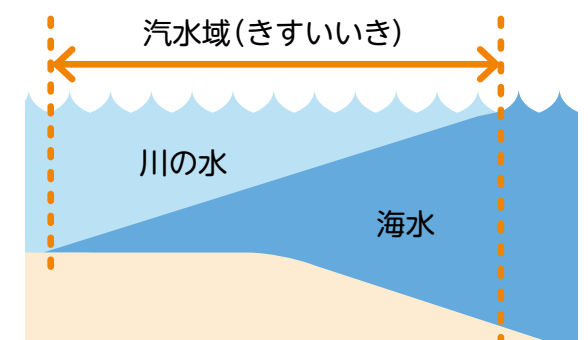
とれた魚の大きさ（体長）や重さをはかりました。



まめちしき

汽水域きすいいきは、川の水は上に、海水は下に分かれていて、潮が満ちた時には、海水が川底を上流までさかのぼります。

隅田川すみだがわでは、岩淵水門いわぶちすいもんまで、海水が流れこんでいます。



名前はなあ〜に？



コノシロ

全長は20cm程度に成長し、東北地方南部以南に分布しています。また、内湾や河口の汽水域に群れですんでいます。

サイズの小さいものから順にシンコ、コハダ、ナカズミ、コノシロと呼び名が変わる出世魚で、コハダは寿司ネタとしても有名です。

コノシロやスズキのように
大きさや成長によって
呼び名が変わる魚を
出世魚しゅっせうおというんだ。



カタクチイワシ

北海道以南の日本全国に分布しています。主に動物プランクトンを食べています。しらすや煮干しなど食用で幅広く利用されています。



ワカサギ

九州以北の日本全国に分布しています。また、河口の汽水域にすんでいます。食用としても利用され、釣りの対象魚として人気があります。



マルタ

全長は30〜40cm程度に成長し、東京湾から富山湾までの本州と北海道に分布しています。また、汽水域にすんでいます。



ガンテンイシヨウジ

全長は18cm程度に成長し、東京湾から種子島に分布しています。また、汽水域から河口に隣接する海域にすんでいます。



ビリンゴ

全長は6cm程度に成長し、北海道から屋久島にかけて分布しています。また、汽水域の泥底や砂泥底にすんでいます。



マハゼ

全長は20cm程度に成長し、北海道から種子島に分布しています。内湾や汽水域にすんでいて、東京湾ではハゼ釣りの対象魚として有名です。



スズキ

全長は90cm程度に成長し、北海道南部以南の日本全国に分布しています。

サイズの小さいものから順にセイゴ、フッコ、スズキと呼ばれます。



ニクハゼ

全長は5cm程度に成長し、北海道から九州にかけて分布しています。内湾や汽水域にすんでいます。

子魚が、お肉のように赤身の強いピンク色をしていることから、この名前が付けられました。



ヌマチチブ

全長は10cm程度に成長し、北海道から九州に分布しています。うまれた子魚は海へ下り、成長すると河川にさかのぼります。

名前はなあ～に？



タカノケフサイソガニ

甲の幅は3 cm程度に成長し、内湾にすみ雑食性です。

以前はケフサイソガニと同じカニと考えられていましたが、別の種類であることがわかり、タカノケフサイソガニと名づけられました。



クロベンケイガニ

甲の幅は3 cm程度に成長し、本州以南に広く分布しています。河口部の干潟にすみ、雑食性です。



カクベンケイガニ

甲の幅は2 cm程度に成長し、秋田県以南の日本海側、房総半島以南の太平洋側で広く分布しています。海水の影響が強い汽水域の岩礁にすみ、雑食性です。



コメツキガニ

甲の幅は1 cm程度に成長し、北海道以南に広く分布しています。内湾の砂浜にすみ、有機物やプランクトンを食べています。



ユビナガスジエビ

全長は6 cm程度に成長し、北海道から九州まで広く分布しています。内湾の岩礁、護岸域にすみ、雑食性です。



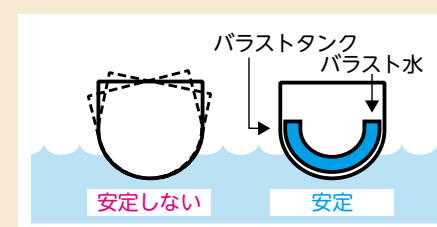
外国からやってきた生き物たち

中央区の水辺には、アメリカフジツボやホンビノスガイなど外国からやってきた生き物たちがいます。

また、外国の水辺にも、日本にしか生きていなかったはずの生き物たちがすみ着いていることがわかっています。

なぜ、あまり動くことができない生き物が、世界の水辺に移動したのでしょうか？

その生き物たちは、世界の海を行き交う貨物船やタンカーなどの船底にくっついて来たり、バラスト水にまぎれて移動します。



バラスト水とは、船が荷物をのせていない時に、船が軽くなって船体が水に入っている部分が浅くなって不安定になることを防いだり、荷物をのせた時のつり合いをとるために積まれた水のことです。

東京湾から外国へ荷物を運んだ船は、そこで荷物をおろした後、船にバラスト水としてその港の海水をバラストタンクとよばれる場所に積んで帰ってきます。そして、また荷物を積むためにバラスト水を東京湾に流します。

また、外国から荷物を運んできた船は、東京湾で荷物をおろした後、東京湾の海水をバラストタンクに積んで帰っていき、外国の港で荷物を積むためにバラスト水を流します。

このバラスト水として積まれた水の中に、その場所にいた生き物のタマゴや赤ちゃんが入っていることがあり、移動先の環境ですむことができる生き物がふえるようになりました。

このように、もともとすんでいた場所から人の力を借りて違う場所に移り、その場所にすむことができるようになった生き物を外来種（がいらいしゅ）といいます。

外来種は、もともとすんでいた生き物たち（在来種（ざいらいしゅ））を追い出したり、今まであった生き物の関係をこわしてしまったりするなどの問題を起こすことがあります。

※船舶のバラスト水による水生生物の移動については、バラスト水管理条約などにより国際的な規制が進んでいます。



きょうきやく 橋脚や護岸にいる がん

生き物

付着生物I

川にかかる橋の橋脚や護岸にすんでいる生き物を付着生物といいます。

中央区の川は、潮の満ち引きで水面の高さが大きく変わるため、潮が満ちた時に水面に近い場所（高潮帯：こうちょうたい）、潮が引いたときに水面に近い場所（低潮帯：ていちょうたい）、その2つの中間の場所（中潮帯：ちゅうちょうたい）で調べました。

高潮帯は水にふれる時間が短いため乾燥に強い生き物、低潮帯は水に触れる時間が長いので乾燥に弱い生き物がすんでいます。

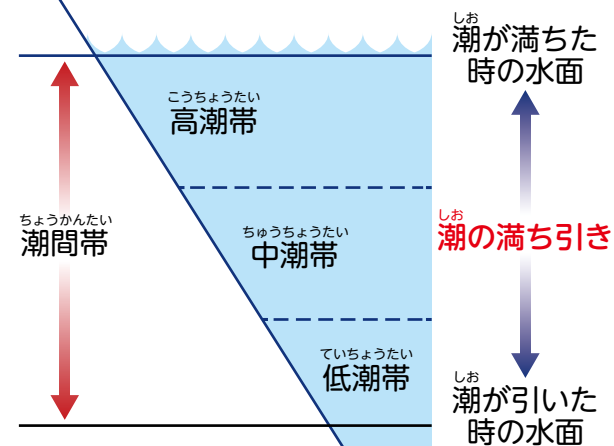
決められた大きさ（15cm×15cm）の枠を使って、付着生物のようすを観察しました。



コウロエンカワヒバリガイ	ア
マガキ	イ
シロスジフジツボ	ウ
アメリカフジツボ	エ
ドロフジツボ	オ
タデジマフジツボ	カ
藍藻綱	キ
アオノリ属	ク
ホソアヤギヌ	ケ
付着生物なし	コ

	①中央大橋	③日本橋	④亀島橋
高潮帯 こうちょうたい	ウ オ ア オ	コ	ウ キ ア ア
中潮帯 ちゅうちょうたい	オ カ エ ア コ	コ オ ウ オ キ ウ キ オ	ア コ ア コ ク コ
低潮帯 ていちょうたい	ケ ア	オ コ ア オ コ	ア ク コ コ ア

《○○帯って?》



まめちしき

橋脚は橋を支える柱のことです。



観察できた付着生物のようす

⑤大手門橋	⑥黎明橋	⑦佃小橋	⑧石川島公園内	⑧石川島公園外
コ ウ カ ウ	ウ ア	キ コ	コ ウ ア	ウ ア オ ク
ア ウ カ ク	ア コ ク	コ ア コ	ウ コ ウ キ ア コ	オ ア オ ウ オ カ ア
ア ク カ	ク ア ク	コ ア コ	ウ ク オ ア キ	ア カ ケ コ

きょうきやく 橋脚や護岸にいる

生き物

付着生物Ⅱ



コウロエンカワヒバリガイ

よごれた内湾や河口域の護岸などにすんでいます。

1972年（昭和47年）に岡山県児島湾で初めて確認された外来種で、現在は、日本各地で確認されています。



マガキ

淡水の影響がある汽水域にすんでいます。
食用となるカキの多くは、このマガキを養殖したものです。
育つ場所の状況で、殻の形や大きさが変わります。



アメリカフジツボ

本州以南の内湾の潮間帯にすんでいる外来種です。

殻の色は白色で、手触りはつるつるしています。
殻を飛び出た部分にはたて線と横線が入っています。



ドロフジツボ

東京湾以南の塩分の低い内湾奥部や河川の岸壁や杭にすんでいます。
殻の色は白色が多いですが、時にはピンク色や紫色を帯びることもあります。



シロスジフジツボ

本州以南の、内湾の中潮帯にすんでいます。
殻の色は青紫色の地に白い筋が入り、手触りがでこぼこしています。



タデジマフジツボ

北海道の一部をのぞき、ほぼ全国の内湾の潮間帯にすんでいる外来種です。
殻の色は白地に青紫色の縦じまが入り、手触りはつるつるしています。



ホソアヤギヌ

日本各地の河口域や干潟の潮間帯に生えています。
環境省のレッドリスト2020で準絶滅危惧に指定されています。



アオノリ属

潮間帯の岸壁や石に生えています。日本では7種が知られており、形は管のようになっています。食用として利用されることもあります。



ドロの表面や中にいる生き物

ていせいせいぶつ 底生生物I

川底には、砂やドロが積もっています。

そのドロの表面や中にいる生き物を底生生物といいます。

底生生物は、水のごみを栄養とする藻類や微生物を食べています。また、魚たちのエサにもなります。



川底のドロをとる器械
(エクマン・バージ型
採泥器)



顕微鏡を使って、生き物を
探しだして数を数えます。



大きさが1 mm以上の底生生物を「マクロベントス」といいます。

とることができた底生生物ーマクロベントス

数/m²

番号	名前／調べた場所	①中央大橋	②浅草橋	③日本橋	④亀島橋	⑤大手門橋	⑥黎明橋	⑦佃小橋	⑧石川島公園	合計
1	アサリ								15	15
2	ホンビノスガイ	30							15	45
3	アシナガゴカイ								133	133
4	オウギゴカイ								15	15
5	シノブハネエラスピオ	104								104
6	スピオの仲間		15							15
7	イトエラスピオ								74	74
8	スピオの仲間								59	59
9	ホソエリタテスピオ								44	44
10	イトゴカイの仲間	15								15
合計（個体数）		149	15	0	0	0	0	0	355	519
種類数		3	1	0	0	0	0	0	7	10

※ 「○○の仲間」としている生き物は、名前（和名）がついていない生き物です。

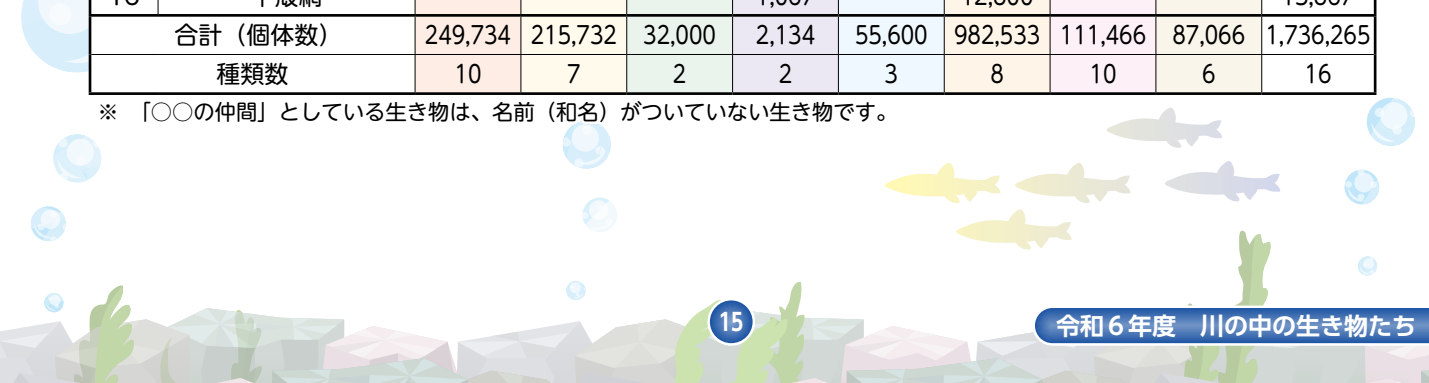
大きさが0.032mmから1mm未満の底生生物を「メイオベントス」といいます。メイオとは「より小型の」という意味で、人の目でやっと見ることのできる大きさです。

とることができた底生生物ーメイオベントス

数/m²

番号	名前／調べた場所	①中央大橋	②浅草橋	③日本橋	④亀島橋	⑤大手門橋	⑥黎明橋	⑦佃小橋	⑧石川島公園	合計
1	有孔虫目		4,267				17,067	2,133		23,467
2	繊毛虫亜門	115,200	14,933	6,400	1,067	25,600	204,800	17,067	14,933	400,000
3	線虫綱	81,067	192,000	25,600		29,867	746,667	91,733	42,667	1,209,601
4	サシバゴカイの仲間	400								400
5	ハナオカカギゴカイ								2,133	2,133
6	シノブハネエラスピオ	4,667							267	4,934
7	スピオの仲間	400	133						2,133	2,666
8	ヤマトスピオ		133				133	133	133	532
9	イトエラスピオ	14,267	2,133			133	400	133	19,333	36,399
10	ドロオニスピオ						533			533
11	ホソエリタテスピオ	16,400						267	1,067	17,734
12	スピオ科	12,933					133		4,267	17,333
13	イトゴカイの仲間	4,267							133	4,400
14	ハルパクチクス目		2,133							2,133
15	ニホンドロソコエビ	133								133
16	甲殻綱				1,067		12,800			13,867
合計（個体数）		249,734	215,732	32,000	2,134	55,600	982,533	111,466	87,066	1,736,265
種類数		10	7	2	2	3	8	10	6	16

※ 「○○の仲間」としている生き物は、名前（和名）がついていない生き物です。



ドロの表面や中にいる生き物

底生生物Ⅱ



ホンビノスガイ

1990年代に東京湾で確認された外来種で、原産地は北アメリカ大陸大西洋岸です。水のよごれにとっても強く、酸素が少ない環境でも生き残ることができます。アメリカでは一般的な食用貝で、日本でも食べられています。



アサリ

淡水の影響を受ける内湾の潮間帯から水深10m位の砂やドロの中にすんでいます。模様はいろいろあり、殻の表面はあらい布目状になっています。食用貝として良く知られています。



シノブハネエ拉斯皮奥

砂泥底にすんでいます。かなりよごれた場所にもすんでおり、川や海のキレイさを判断するために用いられる生物です。



オウギゴカイ

東京湾や下田湾等の内湾の砂泥底にすんでいます。主にドロの表面やとても小さな藻類を食べています。



ニホンドロソコエビ

沿岸の砂やドロに巣穴を作ってすんでいます。



ドロオニス皮奥

潮間帯の砂泥底にすんでいます。

ゴカイや貝類などは、動ける距離がとても短く、すんでいる範囲もせまいです。しかし、タマゴや小さな赤ちゃんは、水の流れなどで遠くまで移動します。

移動した場所の水やドロの環境になると、ふえ始めます。その時、たくさんのタマゴを短い時間で産むため、すぐにたくさんの数になります。

しかし、水やドロがよごれると、すぐに死んでしまいます。

すんでいる場所の水やドロのキレイさを敏感にうつし出す生き物です。

ゴカイなどの生き物は、ドロの中のでよごれ（有機物：ゆうきぶつ）や藻類（そうるい）などをエサ（栄養）にしています。

また、アサリなどの貝類も水中のでよごれ（有機物）を栄養にしています。

このように、水やドロのよごれは、底生生物が食べることでキレイになります。

1匹の底生生物が食べる量は少ないのですが、たくさんの底生生物が集まることで、とても多くの量をキレイにすることができます。

底生生物の活やく

ドロの中は、酸素がある水と触れていないため、くさってヘドロとなっています。

しかし、ゴカイなどの底生生物がすむ穴やエサをとるための穴に酸素を含む水が入ることでドロがキレイになります。

また、ドロの穴の表面にもとても小さな生き物（微生物：びせいぶつ）などがすみ着くことで、水がキレイになるだけでなく、他の生き物のエサ（栄養）となります。

ゴカイや貝類などは、小さな魚やカニ、鳥などのエサ（栄養）になります。

そのため、その数や種類が多くなることで、その場所の生き物の数や種類が多くなります。

底生生物の数や種類は、生き物たちの食物連鎖（しょくもつれんさ）において大切な役わりを持っています。

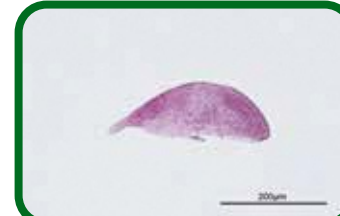
ハルパクチクスの仲間



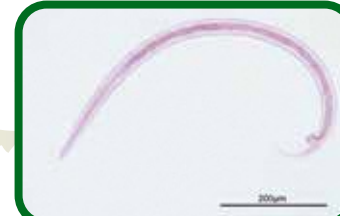
有孔虫の仲間



繊毛虫の仲間



線虫の仲間



すい しつ ちょう さ てい しつ ちょう さ 水質調査と底質調査

生き物がすんでいる場所の水のようす（水質）とドロのようす（底質）も調べました。

水のようすは、その場所にすむ生き物の種類と数に影響します。
ドロのようすは、底生生物に大きな影響をあたえます。
水とドロのようすをしっかりと調べることも大切です。



風向きなどのようすも調べました。



水面と水底の2カ所で水をとりました。



分析室に持っていく用意をしています。



水温などをそくていしています。



ドロのようすを調べました。



分析室でくわしく調べました。

すい しつ ちょう さ 水質調査の結果

項目 \ 地点	①中央大橋	②浅草橋	③日本橋	④亀島橋	⑤大手門橋	⑥黎明橋	⑦佃小橋	⑧石川島公園
水深 (m)	4.0	4.0	2.7	3.2	2.7	4.3	1.6	3.3
水温 (°C)	28.78	26.40	24.50	24.30	24.60	24.30	26.70	24.30
透視度	72	80	>100	>100	>100	45	>100	70
色相 (高色彩)	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色
臭気	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭
電気伝導度 (mS/cm)	19.23	14.56	15.58	20.16	30.8	31.31	27.41	21.51
水素イオン濃度 (pH)	8.11	7.85	7.76	7.95	8.33	8.93	8.00	8.11
溶存酸素量 (DO:mg/L)	7.1	7.0	3.3	3.9	6.3	10.7	4.4	6.7
生物学的酸素要求量 (BOD:mg/L)	2.5	3.5	2.1	2.0	2.6	4.4	1.7	2.1
化学的酸素要求量 (COD _{Mn} :mg/L)	6.3	6.0	6.0	5.6	5.5	6.0	5.1	5.5
塩化物イオン (mg/L)	5,590	4,050	4,830	5,950	10,200	10,200	8,990	6,250
水温 (°C)	28.45	28.62	27.97	27.62	26.11	26.14		28.44
透視度	78	62	>100	>100	>100	50		66
臭気	無臭	無臭	無臭	微硫化水素臭	無臭	無臭		無臭
電気伝導度 (mS/cm)	21.86	17.66	16.24	27.22	34.99	38.28		23.42
水素イオン濃度 (pH)	8.11	7.83	7.75	8.23	8.29	8.52		8.02
溶存酸素量 (DO:mg/L)	5.6	6.1	3.2	3.9	6.4	5.8		5.8
生物学的酸素要求量 (BOD:mg/L)	3.7	2.8	2.0	2.9	3.0	2.7		3.3
化学的酸素要求量 (COD _{Mn} :mg/L)	7.2	5.9	5.8	5.8	5.6	5.1		5.9
塩化物イオン (mg/L)	7,030	4,660	5,080	7,830	10,500	12,300		6,940

てい しつ ちょう さ 底質調査の結果

項目 \ 地点	①中央大橋	②浅草橋	③日本橋	④亀島橋	⑤大手門橋	⑥黎明橋	⑦佃小橋	⑧石川島公園
状態	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト
色相 (低彩度)	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒	オリーブ黒
ORP (mV)	-153	-194	-205	-203	-162	-183	-183	-182
臭気	強硫化水素臭	強硫化水素臭	強硫化水素臭	強硫化水素臭	強硫化水素臭	強硫化水素臭	硫化水素臭	強硫化水素臭
泥温 (°C)	28.4	28.6	27.9	27.6	26.2	26.4	28.2	28.4
水分 (含水率: %)	51.5	75.3	74.4	80.7	67.9	62.4	68.7	67.0
強熱減量 (IL: %)	5.9	14.6	17.4	17.8	17.3	8.3	11.3	13.1
水素イオン濃度 (pH)	7.6	7.7	7.8	7.7	7.8	7.3	8.0	7.7
全有機炭素 (TOC:mg/g 乾重)	14.80	54.96	83.30	65.09	75.82	19.85	37.57	40.98
硫化物 (T-S:mg/g 乾重)	0.99	0.24	4.61	3.93	1.79	0.90	1.25	1.78
COD _{sed} (mg/g 乾重)	14.6	44.1	41.6	64.4	40.3	17.2	29.3	31.5

きょうふ 生き物の恐怖!

あか しお 「赤潮」と あお しお 「青潮」

あか しお 赤潮

「赤潮」は海水中の小さな生き物たち（特に植物プランクトン）がとてたくさんふえることで水の色が赤く変化する現象です。原因になるプランクトンの種類によっては赤かっ色、茶かっ色などにもなります。その場所にすむ生き物が生きられなくなる、おそろしい現象です。特に夏の東京湾で起こります。



あお しお 青潮

「青潮」は海底にある酸素のない水が表面にあらわれることで水の色が青く変化する現象です。青く、キレイに見えますが、その場所にすむ生き物が生きられなくなる、おそろしい現象です。特に秋の東京湾で起こります。



家庭や工場から出る水のよごれが海に流れてきます。

水のよごれが多すぎると、海水中の生き物たちが分解できずに、海底に沈みます。

春から秋にかけて、気温と水面の水温が高くなります。海水中の生き物たち（特に植物プランクトン）は、水のよごれに入っているちっ素・りんを栄養に、たくさんふえます。

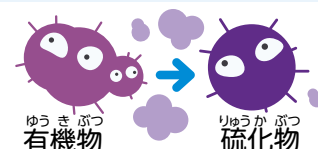
水の色が赤く変わります。これが赤潮です。

赤潮の後、ふえすぎた植物プランクトンや動物プランクトンの死がいは海底に沈みます。

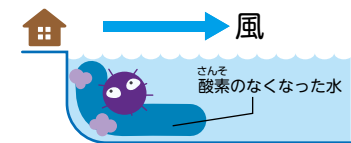


海底に沈んだよごれやプランクトンの死がいはより小さな生き物（細菌）などで分解されます。この時、海底中の酸素を使うため、酸素が無くなります。

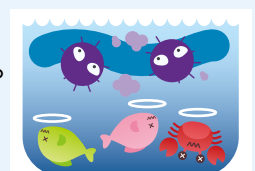
海底の酸素が無くなった水のかたまりは、特殊な細菌によって硫化物をふくんだ水になります。



北から北東の風がふいた時に海の表面の水が沖へ流され、そこに海底の酸素が無くなった水のかたまりが表面に上がってきます。



海の表面に上がった酸素のない水のかたまりに入っている硫化物は、海の表面にある酸素と混ざると硫黄になり、白くにごった青色に変わります。これが青潮です。



あか しお 赤潮の恐怖

- 増えすぎたプランクトンは魚のエラに詰まります。魚は、呼吸ができなために死んでしまいます。
- 一斉に増えたプランクトンは一斉に死んでしまいます。この、プランクトンが分解されるときに海水中の酸素を使うため、酸素が無くなってしまい、魚たちが死んでしまいます。



写真提供：千葉県環境研究センター

あお しお 青潮の恐怖

- 酸素のない水が一面に広がります。このため、あまり早く逃げることでできないゴカイ、貝やその場所から逃げ遅れた魚などたくさんの生き物が死んでしまいます。



写真提供：千葉県環境研究センター

いっしょに考えよう！ 日本にきた生き物たち

水辺にいる生き物（魚や鳥など）にエサをあげること

植物が太陽の光や土の中の栄養を必要とするのと同じで、動物も食べ物との関係がとても大切です。

例えば、魚のエサは小さな魚などを、小さな魚はゴカイなど、ゴカイなどは植物プランクトンや微生物を、植物プランクトンや微生物は水中のよごれを食べるなど、それぞれをエサにしています。このバランスが崩れると、生き物がすみにくい環境になってしまいます。

生き物にエサをあげるのではなく、エサとなる生き物がすめる環境にすることが大切です。

生き物がすんでいるところに石を投げたりおどかすこと

生き物にはこわがりなものもあります。「ここはあぶない！うるさい！」と感ずると、別の場所へにげていなくなってしまいます。

すると、その生き物を食べていた生き物もいなくなります。

気が付くと「みんないなくなってしまった」などということが無いように、そつと見守ることが大切です。

水辺にごみを捨てること

ごみが浮いている水辺は、生き物にとってすみにくいし、わたしたちが見ても気持ちよくありません。

また、生き物が間違っごみを食べてしまい、おなかの中に残ったり、息がでさずに死んでしまうこともあります。

水辺に行った時は「落ちているごみを1つ拾って帰る」ことをしましょう。「来た時よりもキレイに！」ね。

生き物をちがう場所に移すこと

生き物が少ないから友達を増やしてあげようとか、水そうで育てられなくなったから川などに放すことは、その場所にもともとすんでいる生き物の生活をこわしたり、追い出したりすることにつながります。

また、放した生き物も、エサが見つからなかったり環境が合わずに死んでしまうこともあります。

ペットなどの生き物を飼うときは、その生き物のことをよく勉強し、最後まで飼うことが大切です。

それができないときは、初めから生き物を飼わない（あきらめる）ことも大切です。

小さくても「命」なのです。

このパンフレットで名前が黄色になっている生き物は環境省の「生態系被害防止外来種リスト」で総合対策外来種に指定されています。

生態系を守るため一人一人の行動が大切です。次の3つを守りましょう。

外来種被害予防三原則

1. 悪影響を及ぼすおそれのある外来種を入れない。
2. 飼育・栽培している外来種を捨てない。
3. すでに野外にいる外来種を他地域に拡げない。

むずかしい言葉の説明

- **潮の満ち引き** しお 太陽や月の影響で、海の水面上がったり下がったりすることです。
- **顕微鏡** けん び きょう 人の目でははっきり見ることができないほど小さな生き物を見るための道具です。
- **透視度** とう し ど 水のにごり具合の目安です。透明な管に水を入れて測ります。
- **pH** 水の酸性・アルカリ性の強さを表したものです。7.0を中性として、数字が小さくなると酸性、大きくなるとアルカリ性です。
- **D O** 水中に溶けている酸素の量です。水中の植物の光合成や空気中から溶けこみます。生き物がすむには5 mg/ℓ以上が必要です。
- **B O D** 川の水のよごれ度合いを示します。この数字が大きいほどよごれています。
- **C O D** 海水のよごれ度合いを示します。この数字が大きいほどよごれています。

中央区の水辺には、水中を泳いでいる魚類、ドロの中にいる底生生物、橋脚や護岸にくっついていて付着生物など、普段、気がつかないところにも多くの生き物がすんでいます。

生き物たちは、今すんでいる場所に休める場所があるか、水はよごれていないかなどによって数や種類が変化します。

わたしたちは、多くの生き物がいきいきとすめる環境をつくり、守ることが大切です。

多くの生き物たちが安心してすみ続けることができるように、みんなで色々な工夫と努力を続けていしましょう。

参考図書

ハンディー版 環境用語辞典 第3版
(上田豊甫・赤間美文編 共立出版 発行)
目で見る東京湾の水環境 平成23年3月
(千葉県環境研究センター 発行)
東京湾の魚類
(河野 博 平凡社 発行)

参考ホームページ

九都県市首脳会議環境問題対策委員会
東京都環境局
国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所

資料提供

株式会社海洋生物研究所

川の中の生き物たち

刊行物登録番号 6-011
令和6年7月 発行

発行・編集 中央区環境土木部環境課
東京都中央区築地1-1-1
電話 03-3546-5404
印刷 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1